

シリーズ：臨床力 up ! Refresher Course 2 脊椎装具に強くなる ! Basics & Tips

米延策雄，菊地臣一 ● 編集

〔評者〕清水克時（岐阜大学大学院・整形外科学）

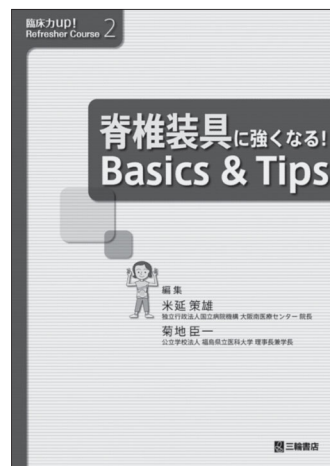
先日，日本小児整形外科学会の中央研修会で初めて，ハンズオンセッションを開催しました。2つのセッションを開いたのですが，いずれも満員でした。1つはインプラントを使う手術手技，もう1つは先天股脱（DDH）の治療に用いるリーメンビューゲル（RB）のセッションでした。私が RB に触れるのは，じつに 30 年ぶりで，新しい発見がありました。まず，RB にはディーテルについて，たくさんの変種があることです。現在使われている RB を一堂に集めることによって，ヴァリエーションを相互に比較しながら RB を深く理解することができました。同時に，ハンズオンセッションの前のミニレクチャーで，RB の歴史を教えていただいたことも，変種の意味を理解するのに大変役に立ちました。先人が加えた改良を時間の軸で概観すると，現在の変種の意味がよく理解できます。

本書は私が RB のセッションで発見した 2 つの要素を兼ね備えています。脊椎装具について，いく

つかのヴァリエーションを一堂に集め，しかも，コラムとして脊椎装具の歴史的背景が述べられています。できれば，初めから終わりまで通読していただきたい小さな本です。この本をテキストにした脊椎装具のハンズオンセッションを組めば，さらに効果が上がるでしょう。どこかの学会でこれを計画すれば，成功まちがいなしだと思います。

脊椎疾患を扱う医師が手術だけに頼るのはまちがいです。私は脊椎の手術をする患者さんにいつも手術が半分，リハビリテーションが半分と説明しています。リハビリテーションのかかなりの部分が装具です。また，装具療法だけで手術を回避できる患者さんはたくさんいます。装具療法に精通することは，脊椎疾患の治療をするために必須の条件です。

医師が装具に高い関心を持つ。装具の目的を科学的に理解し，義肢装具士と緊密な連絡をとって優れた装具を作製する。そして，可能な限り患者自身に装具の主旨を理解してもらい正しく装着する。



このような関係を作ることによって初めて効果的な装具療法が可能となります。良好な関係を作るためには，共通な認識の基盤として本書のようなテキストが重要です。この本を医師，義肢装具士，看護師，PT，OT など，すべての医療関係者に推薦します。

B5 136 頁 2012 年
定価 4,410 円（本体 4,200 円＋税 5%）
三輪書店 刊